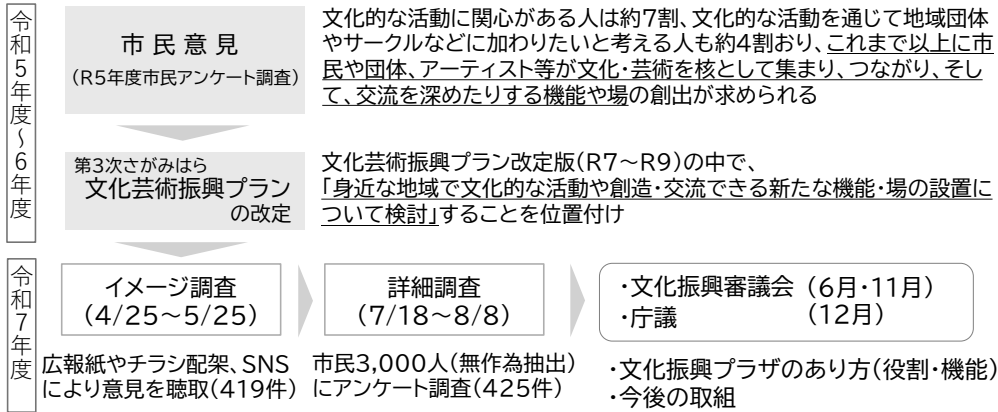
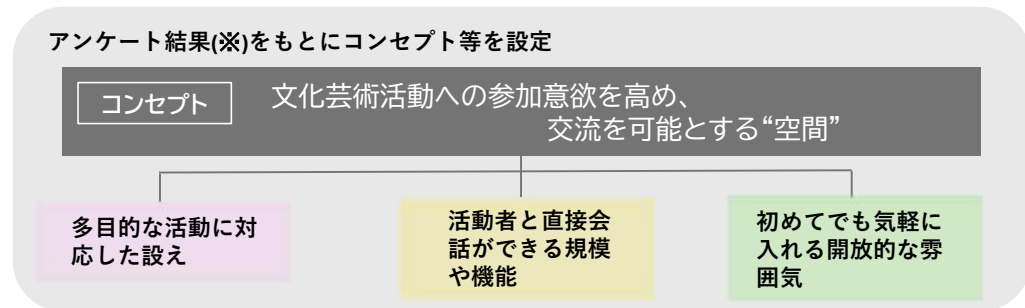


文化振興プラザ事業の検討について

1. 文化振興プラザ検討経過



2. 文化振興プラザのコンセプト



手法・機能例

フレキシブルな空間設計

可動式のパーテーションや設備を導入し、展示、ワークショップ、パフォーマンス、会議など多様な用途に対応可能にする。音響・照明設備を調整可能にし、演劇や音楽イベントにも対応。

小規模で親密な空間設計

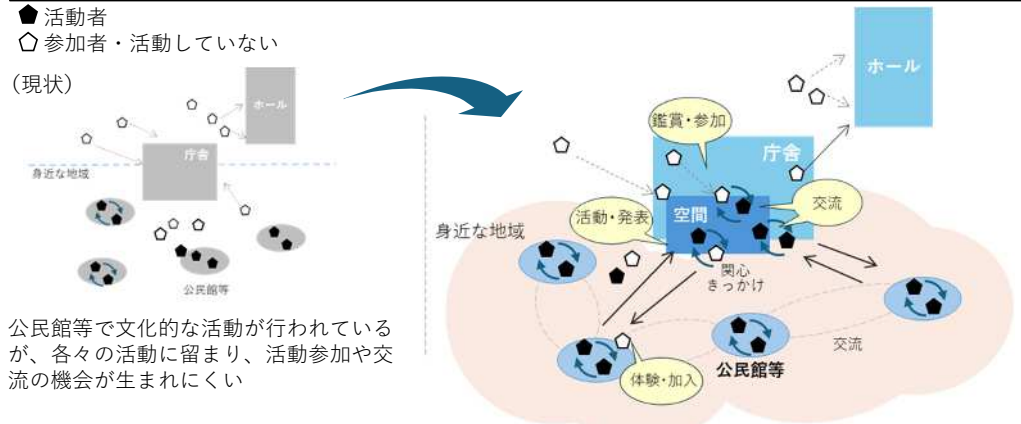
150～300㎡(100～200席程度)のコンパクトなスペースを基本とし、円形やU字型の座席配置を採用することで、参加者同士やアーティストとの対話が自然に生まれるレイアウトに。

ウェルカミングなエントランス

ガラス張りやオープンな入口設計で、外部から中の様子が見え、入りやすい雰囲気を醸成。

3. 文化振興プラザのあり方

「文化芸術活動への参加意欲を高め、交流を可能とする“空間”」を各区庁舎に設ける取組(ハード・ソフト)を **文化振興プラザ事業** として位置付ける



文化振興プラザの役割・生み出す効果

- (意図的・偶発的)鑑賞機会の創出
- 地域の文化芸術活動に触れる機会の創出
- 活動者間、活動者・参加者の交流機会の創出
- 活動参加の機会を創出

→身近な地域での文化芸術活動を推進

各区庁舎に設ける意義

- 区庁舎は各地域から訪れやすい中核的拠点であり、行政手続きを目的とした来庁者など、幅広い層への機会提供が可能
- 立ち寄りやすく、出入りしやすい公共空間であるため、鑑賞・参加の心理的ハードルを下げる事が可能
- 待合スペースとしての利用など、空間の有効活用が可能
- 柔軟な事業展開や運用が可能

4. 今後の取組

○各区庁舎の状況と今後の取組

	文化振興プラザ事業の取組	長寿命化計画の位置付け
緑区合同庁舎	改修等の計画が無い場合、ソフト施策による空間づくりを検討し、将来的にはハード整備を目指す。	
市役所本庁舎	市役所本庁舎の再編・再整備の進捗にあわせて、ハード・ソフトの両面から検討する	公共施設マネジメント推進プランに基づくあり方の検討
南区合同庁舎	長寿命化改修事業と連携し、ハード・ソフトの両面から空間づくりに取り組む	長寿命化改修工事対象

(空間のイメージ) 各施設の基本構想や基本計画の策定段階において、施設の特性や状況に応じた空間を検討する



参考例：氷川の杜ひろば (大宮区役所・図書館)

参考例：ナカノバ・シェアノマ (中野区役所)

○“身近な地域での文化芸術活動を通じた交流”を促進するソフト事業の検討・実施

※アンケート結果は市ホームページに掲載

トップページ>魅力・スポーツ・文化芸術>文化芸術>計画・審議会・市史
>さがみはら文化芸術振興プラン

